

'78 新春



あけまして

おめでどう

ごいします

いわみざわ
報 廣

発行
岩見沢駐とん地
編集
司令業務班広報
服務規律刷新月間

酒 金 女
の 虜 にな る な

今月は...
スキー競技徹底月間
...です



準備運動と発汗の後始末を確実に実施して、部隊の戦力発揚に努力しよう。

第十二施設群長
兼 岩見沢駐とん地司令

一等陸佐 林 田 春 義

新年おめでと。新年にあたり、まずもつて隊員諸官、御家族ともどもの御健勝を祈願します。願ひますと、昨年は諸官の非常な努力により、隊務は極めて順調に推移し、諸官の苦勞の結果は、訓練に、又、駐とん地の勤務、居住環境の整備に顯著に表われました。非常に忙しい一年だつたと思ひます。改めて諸官の勞に敬意を表します。

新年度も又、国内外の情勢は一段と厳しさが予想されているようですが、私達はこの至嚴さをがつちり受け止めて、任務を基礎に、常に前向きに隊務を処理し、明るく駐とん地の伝統を維持、拡充したいものと思ひます。

新年を迎え、諸官とともに、思いを新たにたして、この一年も元気に頑張りますよう。

岩見沢駐とん地業務隊長

二等陸佐 池田 敬 一郎

新年おめでと。昭和元禄時代も終り、新しくきびしい時代に入り、一面良いことだと思ひます。アレコレしたこの十年間は自衛隊にとつても良い感作を与えなかつたが、これからは速うと思ひます。

緊要一番、国防に携さわる者らしい自負を持つとてはなにか！

まことに「甘え」の風潮は公費以上に我々をむしばんでいる筈だ。組織に「甘え」は許されぬ。公私にわたり、きびしく生きようではないか山中麿之介の話をだすまでもなく、プライドを持ち、信念をもつてこの一年を有意義

に過したい。
主動部隊は、バリバリ訓練に汗を流して貰いたい。支援部隊は、その姿に感銘して徹底した即動的サポートを行うことを誓いたい。



謹賀新年



第十二施設群長 兼 岩見沢駐とん地司令 一等陸佐 林 田 春 義	第十二施設群副群長 二等陸佐 齋 藤 咲 男	第一科長 三 等 陸 佐 齋 藤 芳 男	第二科長 一 等 陸 尉 齋 藤 彦 夫	第三科長 三 等 陸 佐 松 浦 敏 之	第四科長 三 等 陸 佐 後 藤 明	群本部中隊長 一等陸尉 高 場 勝 観	第三三五施設中隊長 一等陸尉 太 田 常 夫	第三三六施設中隊長 一等陸尉 板 田 長 武	第三三七施設中隊長 一等陸尉 得 田 憲 司	第三〇四ダンブ車両中隊長 一等陸尉 河 野 敏 一	第三一二施設器材中隊長 三 等 陸 佐 岡 田 徹 也	第三〇一地区施設隊長 三 等 陸 佐 高 岡 順 一	岩見沢駐とん地業務隊長 二等陸佐 池 田 敬 一郎	第三二七會計隊長 一等陸尉 中 崎 至	第二一四基地通信中隊長 三 等 陸 尉 岩 見 沢 派 遣 充	第一〇一地区警務隊長 二 等 陸 尉 岩 見 沢 派 遣 充	班長 二 等 陸 尉 岩 見 沢 派 遣 充	北部方面調査隊長 三 等 陸 尉 岩 見 沢 派 遣 充	隊長 三 等 陸 尉 岩 見 沢 派 遣 充	札幌地方連絡部岩見沢募集事務 一等陸尉 谷 藤 弘
--	---------------------------	----------------------	----------------------	----------------------	--------------------	------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	------------------------------	------------------------	------------------------------------	-----------------------------------	------------------------	---------------------------------	------------------------	------------------------------

群本部中隊
二等陸曹 市川 孝徳

古来、中国に「三上」とい
う言葉がある。

「寝床の上」「カワヤの上
」「馬の上」の三つの場所を
指していて、ここに居る時が
人間最も良い知恵が浮かぶと
いう。これを「ベッド」「ト
イレ」「カー」といって直せば
現代でも通用する。

私はアイデア創造の場、反
復訓練の場として、この「三
上」を設定したい。例えばト
イレには「昨日いただいた色
色のご馳走が、あれほどくつ
すり眠っている間にも一刻も
休まずして今、血となり、肉
となり今日一日だけ働いて
ても全然疲れを知らないエネ
ルギーとなり、今、その不要
物だけをスムーズに排せつさ
せていただくのである。これ
ほど無限の力で思い切り社会
のため、多くの人々のため働
かせていただくのだ。今日は
わが生涯最良の日だ。」と、
この文句を唱える機会に思ま
れる。これが反復の一つであ
る。

寝室の天井にはアイデアが
どんどん浮かぶとか、仕事か
うまくいくとか、願いをこと
を記した書きつけを張って毎朝
起床の中から見上げる。車に
乗れば「生かさず殺さず」守られ
「導びかれ」と暗誦するこ
とにする。
こうすることで一切のマイ
ナスの潜在意識に切りかえる
こととなる。

「潜在意識の訓練」を私の
持論(抱負)として、馬年に
あたり大いに駆けめぐりたい
ものだ。

群本部中隊
陸士長 竹内 久

まず第一に、先行性をもつ
て物事を処理して行きたい。
今年をふり返つてみて、反
省しなければならぬこと。
それは、やはり、先行性が
欠けていたように思われ
てなりません。陸士長にもな
り、上司から命令され、それ
だけをやっていたのでは新隊
員と同じ。命令される以前に

年頭にあたって

第三三五施設中隊
二等陸曹 池田 哲夫

私は、現在分隊長をしてい
ます。昨年は総合訓練検閲を
筆頭に、数々の忙がしく、又
思い出に残る訓練の年であり
ました。そして、私自身にと
つても、非常に意義深い年で
ありました。

さて、新年を迎えて私の今
年の抱負を述べます。
第一に、「小部隊の指揮官
としての資質向上」
第二に「幹部候補生に合格
すること」であります。
目標は非常に高く持つて出

進んで物事をやつて行けば、
何かを得られると思えます。
そして、又、この社会の中に
一歩前進し、大人になつて行
く気がします。

第二に、自分の趣味を伸ば
して行きたい。芸は身を助け
る、という諺がありますが、
趣味、つまり「芸」をもつて
いるという事が、自分はこの
いう人間だということを表わ
す最高のものだと思っていま
す。

というわけで、来年はこの
二点を重点的に伸ばすより、
心掛けて行きたいと思つてい
ます。

第三三五施設中隊
二等陸曹 山 村 修

入隊以来、新年を迎えるの
も早や三度目となつた今、陸
上自衛隊の陸士としての立場
も、よりよく理解できるよう
になつた。

発します。私達中堅陸曹の立
場は、自衛隊にとつて一番大
切な立場に置かれていて、こ
を自覚し、あらゆる場を活用
して、自ら学び、模範を引つ
張つていこうと思つておりま
す。

第三三六施設中隊
三等陸曹 夏 井 昇

私の一年の計は、速く日銀
に押やく寒寒別岳に向つて警
いを立てることから始まる。
しかし、毎年多くを望むせ
いか、ふり返れば反省ばかり
多く、満足に実行できたため
しがないのが真実である。
そこで、今年は何もを望ま
ず、可能性の高いものを目標
に掲げたい。

私の目標は、日本スキー連
盟のパッチテスト一般に合格
する事と、部隊スキー指導官

しかし、その反面、わから
ない点も多い。この陸士生活
の中で何か一つ強烈な印象と
なる思い出を残したい。と人
隊以来思い続けていたのだが
昨年やつとレンジヤー教育に
ついて実現されたかのように
思える。不とう不屈の精神と
いうことを、身をもつて教え
られた。

今年はこの精神をもつて、
まだ知らない陸士に必要なこ
とをトコトン学んで行きたい
又、それと共に、陸曹候補生
試験の合格を目指すつもりで
ある。受験有資格の諸君。お
互いに良きライバルとなつて
ガンバロウではないか。

に合格することである。
スキーのできる日は必ず、
休まずに基礎をつめば、自分
の力量からして合格できない
はずはない。努力次第で必ら
ずや目標達成はなるものと確
信している。

とに角、今年は何もを望ま
ず、可能性の高いものを目標
に掲げたい。

第三三六施設中隊
二等陸士 小林 伸 広

新しい年を迎えて今年こそ
はと、何か行動をおこすに
けじめの良い時と思えます。
私にとつて昨年は、大きな
転換の時でした。四月、学生
時代を終えてすぐに入隊、社
会人の仲間入りをしました。
八ヶ月間の自衛隊生活を過
じて、自分なりに一生懸命に
訓練に励みましたが、まだま
だこの大きな自衛隊の組織は
わかりません。

今年には仕事の面は勿論、積
極的に動き、人間関係を大切
にして行きたい。
私的な面では余暇を利用し
て自分の趣味を生かしたいと
思っています。管内生活をして
いると、外部からの情報が少な
くて、今、世の中では何が起
きているのかわからないこと
が多く感じています。
そこで今年こそは本を読んで
、世の中から取り残されな
いようにしてゆこ
うと思つています。

第三三七施設中隊
二等陸曹 川 東 岩 男

勤務を終えてからの水泳の
指導に励みはじめて、もう二
年ほどになる。仕事の関係か
ら初めに考えていた頃よりも
通えないのが現実であるが、
それでもチビッコの指導のむ
つかしさを、常に迷いつづけ
る。「きびしい顔、厳しい練
習、皆人を仲良く」でやつて
いるが、人生に役立つ克己心
や人一倍努力する習性を養う
のが目的でもある。

さて、最近しきりに生涯教
育ということがいわれている
が、人はこの世に生をうけて
から一生を終る間に、幼稚園
から義務教育を経て、社会で
広く一般の人々から学ぶよう
な宿命になつていく。日進月
歩の中に生きて行くためには
自ら人に倍する努力が必要に
なる。しかしながら現在、人
の仕事を機械が代り、主婦
の解放もよいのであるが、そ
の結果は過保護の子供が多い
ように思われる。

今年はこの子供達に、明
日への希望と夢をもつ子供達
健康と人一倍に努力する子供
達にしてみたい。というのが
私の夢である。
水に入ると泣いていた子が
今は水が大好きな子も多い。
何となく夢もふくらむ、昭
和五十三年になるかも知れな
い。



第三〇四ダンプ車両中隊
三等陸曹 古賀 博

私は、昨年の八月に九州から岩見沢に転属して来ました。北海道で初めての冬を迎えるのですが、見る物、聞く物全てが初めての事なので、とまどつております。

凍結時や積雪時における車両操縦の経験は全くありません。新年早々から始まる「雪まつり」支援等においては充分に注意して、目前に控えた車両無事故操縦三万キロを達成するとともに、次の目標である六万キロも年内には達成できるように頑張りたいと思っております。又、スキー訓練においては、基本をしつかりと身につけ、先輩に負けないよう頑張ろうと思っております。

昨年は何も判らないままに年を越してしまいました。今年、他隊員の模範となるべく努力したいと思っております。

第三〇四ダンプ車両中隊
二等陸士 遠藤 靖

新年を迎えての、今年の一歩大きな目標は、ダンプ中隊においての生命である大型免許を取得することです。

この大型免許を取得することによつて、私の、このダンプ中隊における一歩になると思つております。

第一歩も進まないのに次の目標を言うのはおかしいですが、免許を取得したなら、無

事故走行距離を出来るだけ伸ばしたいと思つております。それだけでは優秀なドライバーとはいへませんが、一歩でもそれに近づきたいと思つております。そして一日も早く、第三〇四ダンプ車両中隊のドライバーとして、活躍できるように頑張るつもりです。

第三一二施設器材中隊
一等陸士 大城戸 俊郎

去年をふり返つて見ると、漠然たる目標はあつたが、何かの資格を取るとか、趣味を生かして今の生活を充実させるとか、そんな身近で具体的な目標がなかつた。そのため

ばかりで、実行が伴わなかつたように思われる。そこで今年はそのことにアタックしたい。

一 体力の向上 特に持久力の向上を図る。前回の体力検定で特に持久走が悪かつた。精神面の忍耐力の不足でもある。又、自衛官として必要を一要素に欠けていることでもある。

二 初級陸士測量教育を受けたいことを無駄にしないため、測量士補の資格取得と、実際に現場に出て、教育で学び切れなかつたものを学びとり、公私ともに役に立つものにした

今年を振り返る

△一月
「駐とん地」
十日から十四日、家族スキー講習会、百七十名の参加者により盛況を極めた。

「群」
十三日、団冬季戦技競技会一施群に僅少差で惜敗、華優勝。二十四日から積雪地機械化築城演習、上高良野の酷寒の中で多大の成果を挙げた。十二日から九月入隊新隊員教育始まる。

△二月
「駐とん地」
十三日、駐とん地冬季運動会。二十一日から当直司令室改修

「群」
スキー転地訓練、スキー検

定、駐とん地整備用資材運搬集積等。雪に明け、雪に暮れた。

次推進される。十五日からバレー、テニスコート、弓道場などを新設、野球場改修工事外さく補修。

「群」
六日から団精神教育指導法十五日、団銃剣道大会において参加全部隊を制覇、二連覇優勝、年頭を飾る。

△五月
「駐とん地」
七日、防火講話と映画。十四日から会計実地監査受検

「群」
部内外工事着手。岩見沢市日の出中学校敷地整地工事。利尻町天望山スキー場新設工事。智恵文小学校敷地整地工事。雄武町立統合中学校建設用地整地工事、その他、美唄官舎用地整備工事、丘珠駐とん地整備工事、が実施された。十日から六月九日までの一ヶ月間、群交通三悪追放特別月間が実施された。

△六月
「駐とん地」
七、八日災害派遣準備訓練。九、十日家族陶芸教室。二十日から駐とん地バレーボール大会。

「群」
四日、持久走記録会。四日から名寄官舎敷地造成工事。十九日、美唄市身体障害者スポーツ大会支援。十日から剣道中学校グラウンド整地工事。二十七日から三月入隊新隊員教育始まる。

△七月
「駐とん地」
駐とん地道路舗装工事、鋪

駐とん地道路舗装工事、鋪装用資材輸送。二十五日から北海道栄養短大生(八名)給食調理実習。十九日から三日間、定期監察(業務課)

「群」
二日、持久走記録会。八日から二十三日まで矢白別、然別における群集中野官訓練。二十一、二日、緑成園重慶身体障害者海浜療育キャンプ支援。二十五日から駐とん地道路舗装工事及び下川中学校統合校舎敷地造成工事。二十八日、二十九日、自衛隊協力会海浜行事支援(岩見沢、月形町)。二十四日、自衛隊協力会員体験乗艦(小樽)

△八月
「駐とん地」
業務隊長離任。六日、岩見沢市民夏まつり音楽隊支援及び三千人おどり参加。

「群」
群本部中隊長、三一二施設器材中隊長、三三七施設中隊長離任。三日から渡河訓練(江別)。十二日、団創立記念日。二十五日、道防災図上訓練。

△九月
「駐とん地」
十七日、隊内舗装工事完成。十二日から北海道財務局検査受検。

「群」
四日から団集中野官転地訓練。八、九日、群CPX。十五日、秋まつり支援。二十九日から十三施群へ警衛支援。二十六日からレンヂャー訓練。

△十月
「駐とん地」
八、九日、駐とん地創立二十四周年記念行事。洗車場新設工事。

「群」
十七日から攻撃支援野営。二十四日から渡河野営。

△十一月
一日から冬季時間始まる。九、十日、防火監視検査受検。十四日から警衛窓サッシに改修。十八日から年末物資あつせん。十四日から司法監査(警務隊)。二十八日から三十日、駐とん地美術展。二十八日からフォークリフト運転資格講習。

「群」
四日から十日、団総合訓練検閲受閲。六日から二十六日、液体爆薬試験支援。十四日、群スキー特戦隊発足。二十日から丘珠駐とん地除雪工事。二十八日からスキー転地訓練(名寄)

△十二月
「駐とん地」
一、二日、及び五、六日、合同展示即売会。二十二日、クリスマス・パーティー(クラブ)。二十二日、即売会。十六日から服務規律刷新月間。二十七日、駐とん地司令点検。二十八日、御用納。

「群」
十九日からスキー転地訓練(名寄)。下旬、群スキー戦技競技会。岩見沢市、美唄市、名寄市、北村など除雪工事始まる。丘珠駐とん地、稚内駐とん地除雪工事始まる。

かねて皆さんにご協力を求めておりました、駐とん地十大ニュースは、次のとおり決定いたしました。多数の応募者の中には、残念ながら「ドンピシャリ賞」はございませんでしたが、群本中車両班の案が、十題中九題適中していたのが、最高位でしたので、本紙から薄謝を贈呈いたしました。御協力ありがとうございました。

昭和五十二年度 駐とん地 十大ニュース

- (1) 団、総合検閲受閲
- (2) 駐とん地道路舗装工事
- (3) 団、統剣道大会、二連覇
- (4) 液体爆薬実験支援
- (5) 特別私有車事故防止月間
- (6) 龜石純郎一等陸曹急逝
- (7) 群、集野野訓練(矢白別、然別)
- (8) 冬季機械化築城(上富良野)
- (9) 会計突地監査受検
- (10) 駐とん地創立二十四周年記念行事

ことしの流行語

ベスト・テン

(マジTV調べ)

- (1) 九たりじやー(八ッ葛村)
- (2) 母さん、僕のあの帽子どうしたてしよらね。(角川文庫CM)
- (3) トンデレラ、シンデレラ(研ナオコCM)
- (4) ルーツ(アレックス・ヘイリーの作品)
- (5) イワテケン(千 昌夫CM)
- (6) よつしや、よつしや(田中角栄)
- (7) ○○の証明(森村誠一の作品)
- (8) 読んでから見るか、見てから読むか。(角川文庫)
- (9) 天は我々を見放した。(映画、八甲田山)
- (10) 僕って何?(芥川賞受賞作品)

酒の飲み方

故吉田茂首相といえは、誰でも知っているが、その吉田さんの息子さん(吉田勝)が評論家の吉田健一さんであつたことは、案外知らない人が多い。

この吉田健一さん、八月三日に亡くなつたが、評論ばかりでなく、小説、随筆も沢山書いてる。一面無類の酒好きで、食通ときていたので、酒や食べ物について書いたものも少なくない。

吉田さんに酒の飲み方について言わせると、酒を飲んでいる時の境地というものは、犬が真冬に寒風をよけて、日向ぼっこをしているように、ぼんやりとした気持で飲むのが最高で、ヤケ酒などというのは、酒を飲む趣旨からいえば下の下、といつていい。

また、酒の上でのことだ、仕方がない、という人がいるが、そんな人は日常生活もだらしがない。飲んでからむなどは、犬の日向ぼつこの境地からは非常に遠い、と。面白いことをいつているが、何れにせよ、酒は人のために存在するもの、楽しんで飲むのが一番のようである。



ウイスキーの水割り二杯が 二十二万円プラスアルファとなる話

岩見沢警務連絡班

この話しは、ススキノの暴利バーでの話しではありませぬ。某駐とん地のある隊員が、飲酒運転をした代償(ツケ)の話です。

つう一ヶ月程前の十一月十四日、帰宅後前日の日曜から遊びに来ていた父をマイカーで十キロ程離れた実家に送りどどけ、ひと休みしているうちに親の家という気易さからすゝめられるまゝに、ついウイスキー水割をコップで二杯飲んだ後、酔いをさますつもりで二時間位休み、交通量の少ない近道を通過して帰宅中、たまたま検問中の警察官に「酒気帯び運転」で検挙された。

その結果が罰金三万円、懲戒処分、停職八日、それによる一年間の金銭的損失の概算が、

- 俸給減額 四八〇五六円
- ボーナス減額 八五三二円
- 差額減額 九二九七円
- 昇給延滞六ヶ月分 五二八〇〇円
- 罰金を加えて合計約二十二万円也。

この数字からだけ見れば、ススキノの暴利バーにひつかつたと思つて、あきらめがつくかも知れません。



だが、これほど飲酒運転が社会問題化している時、その根絶の先達となるべき自衛官としては、金銭的損得だけで論ずる訳にはいきません。もつともつと厳しい環境が存在していることを忘れてはいけません。

現に、その隊員もそのことにより、退職を予定しているとか。即ち、この事案の場合罰金、懲戒処分のほか退職というプラスアルファが付加されたことになりました。

この隊員は、四十三年に入隊、現在三曹七号俸、管外、妻は以前P.Xの美人看板娘だつたとか。帥走を迎え、予定しない不測の退職とは、今の不況下にいゝ輩があるだろうかと、思うとき、少なくともわが最愛の家族にだけは、責任をもてる人間でいたいものです。



編集後記

冷たい若水で顔を洗い、引き締つたほほにほんのりとそよぐ淡い湯気。北海道特有のコツテリした風味のお雑煮、お碗のふたを開けると初春の香りがブーンと立ちのぼつてくる。

あけましておめでとうございませぬ。昭和五十三年を目前に迎えました。今年こそは落ち付いた平和な年でありませうと祈念いたします。

皆さんに御心配をおかけいたしましたことを、深くおわび申し上げます。幸い、皆さんの常に変らぬお助けましと御教示により、こゝに新年号を発売できましたことは、編集子にとりましても望外の喜びでございます。

今後とも、孤軍奮闘ではありませぬが、なし得る限りの努力をもつて、皆さんの「いのみざわ」として発行を続けていきたいと思つておりますので、どうか御叱声、御投稿の程、よろしくお願いいたします。(堀田)